

N-3 石巻市牡鹿町鮎川浜地区

2012年1月11日(水)

報告者名	山口未花子	被調査者生年	生年未確認(男)
調査者名	山口未花子	被調査者属性	株式会社鮎川捕鯨 代表取締役社長
補助調査者	兼城 糸絵		

震災前の行事の内容と地域社会の実態(調査者の被災以前の調査結果を含む)

・鮎川の捕鯨文化

鮎川はもともと捕鯨産業によって発展した町であり、総合庁舎や学校などが集中するという点で牡鹿地区の要という位置付けができる。

捕鯨産業は、捕鯨会社はもとより、博物館おしかホエールランドや鯨製品の加工や販売を行う事業、また捕鯨関連する観光業が展開されていた。また、捕鯨会社やこうした事業に携わる人員は、鮎川浜だけでなく、新山浜などの近隣の浜や、利府町など別の市町村からも働きに来る人がいた。

町のいたるところ、バス停や外灯、水道管のふたなどに鯨のデザインが見られ、牡鹿地区(旧牡鹿町)の象徴としてのクジラ、あるいは捕鯨という存在の大きさを感じることが出来た。

また地域で最大規模の祭事である「くじら祭り」について、調査者は平成15年に調査を実施したことがあるが、その際には二日ばかりで様々なイベントが開催されメインの花火や演歌ショーには7~8,000人の人出があった。その他のイベントとして、金華山の黄金山神社からの龍(蛇)踊り、地元若者による古式捕鯨ショー、鯨肉の試食会、子供たちの鯨神輿、婦人会などによる七福神舞など様々な催しがあった。

・捕鯨会社と地域の文化

くじら祭りの中でとり行われる鯨供養や捕鯨船によるデモンストレーションは捕鯨会社が主催して行われた。また、船の神である舟玉様を祭り、出漁や鯨の捕獲時にお供えをすること、お札を毎年新しく変えるなどの儀礼が砲手によりとり行われていた。

また、春船の検査(ドッグ)が終了し、操業を始めるまでに期間の大安の日に一度、金華山参りへ捕鯨船員全員とで行くことも毎年行われていた。黄金の杓で頭部を払ってもらう。船のお祓いと豊漁祈願をする。また、漁期が終わった後に船員や社長などが個人的に鯨供養のために山形の善宝寺へお参りに行くこともあった。

現在の鮎川捕鯨は、平成20年に鮎川の星洋捕鯨、日本近海、鳥羽捕鯨、A&F鮎川事業所と網走の三好捕鯨が経営統合して誕生した。平成20年当時の従業員数は28人、船は第28大勝丸と第75光栄丸の二隻という体制だった。

社長は昭和51年に捕鯨会社に入社し、陸上勤務員として小笠原などにも遠征した。その頃は捕鯨最盛期だった。以降ずっと捕鯨業に従事してきた。

震災で受けた被害、影響

・被害

震災では、鮎川捕鯨の社屋が、倉庫のフレームと屋根の一部を残して津波で全損した。それだけで3億円近い被害。それに加えて製品が流されたり船の修理などでプラス1地億円の損害。第28大勝丸は偶然石巻にドッグ（点検修理）にだしていた。津波でもっていかれたが、その後近くの浜に揚がった。それを修理して何とか使えるようになった。もう一隻は流されてしまって取り戻す術はない。でも幸い千葉の外房捕鯨で船を新造したため、古い船を譲り受けることが出来た。

解体場（まないた）は沿岸にあったので、ぎりぎり浸水を免れたくらい。板をはがして会社の近くで解体場を設置した。また、倉庫兼作業場は残ったフレームを使って再建し、それ以外の事務所などはプレハブで代用することにした。

・影響

船があったから何とか事業を再開することが出来た。乗組員（一隻につき7人）も1人だけ辞めたが、あとは全員残ってくれた。辞めた1人の枠も、地元で補充人員が見つかった。砲手は28大勝丸が現在40歳、砲手歴3年目のA氏、幸栄丸は50歳で砲手歴5年目のB氏がそのまま続けている。まだまだこれからの砲手だが、経験を重ねて慣れてくれるだろう。

・平成23年の操業

船は修理が必要だし、港も解体場も使えないので、今年はず6月に陸上勤務の人たち（解体など）が釧路へ行って手伝ってきた。そして6月中旬から船も釧路に出した。でも新しい漁場だったし、毎日霧が出て、なかなかとれなかった。20日間1頭も捕れずに7月に入って初めて1頭ツチクジラが捕れた。それで7月中に5頭、8月に入ってから11頭捕ることが出来た。毎日見ててわかってきた。そのまま9月には鮎川で毎年捕っているツチクジラをすぐに捕ることが出来た（鮎川捕鯨の捕獲枠は1頭）。今は捕れた鯨の加工をする時期。地震で地形が変わったというが、ツチクジラは深海性の鯨なので、生態にはあまり影響はないようだ。放射性物質の影響も心配されたが、今のところは鯨肉から検出されていない。くじら祭りは、平成23年は開催出来なかった。

今後の展望

・平成24年の操業

3月には船をドッグにいれ、そこから船が帰ってきたら4月の大安に金華山参りをする。4月10日前後から5月いっぱいには鮎川で調査捕鯨を受け入れる予定。鮎川捕鯨、外房捕鯨、太地捕鯨の3社でやる。沿岸のミンクを捕る。港が使えないからクレーンとトラックで運ぶ。函館での経験があるし。放射能が出るかもしれないが、調査捕鯨だし、それはそれで事実が分かっているんじゃないか。6月1日からは千葉県銚子沖まで船で行ってツチクジラを捕る。平成23年の捕獲枠が5頭分残っているので、31頭まで捕れる。8月お盆過ぎには網走でツチクジラを捕る。そのあと9月6日か、10日くらいから10月いっぱいには釧路での操業（調査?）。

くじら祭りについては、今のところ未定。出来ればいいが難しい。